

## 2026年3月期 第2四半期決算説明会(2025.12.9開催) Q&A

- Q1.** 環境建設分野の地熱発電向けの輸出はどれぐらい期待できるのか。また、アメリカの石油掘削向けに輸出はしているのか。もし輸出しているとすれば、御社の優位性は何か。
- A1.** 現在のところ地熱関係でベントナイトの輸出実績はない。あくまでも国内中心のビジネスに留まる。しかしながら、東南アジアのインドネシア・フィリピンでは地熱発電が盛んに行われており、当社も遅ればせながらインドネシアでのビジネスの可能性を探っている。北米の石油掘削やガスと地熱は現地のベントナイトメーカーが過去より市場を独占しており、以前に検討したことはあるが、様々な理由により難しいと考えている。
- Q2.** 直播栽培について、売上高は3年後どれぐらいのポテンシャルがあるのか。削減できるコストについて、例えば農家の人件費が30%カットできるのか、同じぐらい労働力が要らなくなるのか、そのあたりを教えてください。
- A2.** 種子コーティング事業は大手外資系メーカーと組んで進めており、当社の売上高が委託メーカーにとっての加工コストとなるので、売上高は控えさせて頂きたい。先程のスライドの通り、前々期から前期で成長率が88%、今後も20~30%の成長率を見込んでいる。売上規模の具体的な数字は申し上げられないが、数億円規模を想定している。農家のコストについては各農家によってコスト構造が異なるため一概に言えないが、凡そ1割ぐらいのコスト削減が可能なケースもあると聞いている。
- Q3.** 鉄コーティング種子は湛水直播で御社の種子は乾田直播に対応するという理解で良いか。また、鉄コーティング以外の競合メーカーはどんな会社があるのか。
- A3.** 当社が手がけている水稲用の種子コーティングは、乾田直播向けではなく湛水直播向けに適用させたもの。酸素供給成分と殺虫殺菌成分に加えて水に沈めやすくするために鉄の重たい成分をコーティングしている。乾田直播は水を張らない分、湛水直播に比べて雑草管理等で非常に収穫量が不安定である。鉄だけ、酸素の供給成分だけのコーティングは古くから一部の農家によっては採用されていたが、当社の種子コーティングは、複数の成分を組み合わせることで機能性を高めているため、競合先は少ない状況。ただ、その他の農薬メーカーも直播栽培については今後のトレンドと見ているので、当社が組んでい

る農薬メーカー以外も参入してくることは十分にあり得ると考える。

- Q4.** クニピアの在庫調整の原因は何か？また在庫調整はいつ頃終了する見込みなのか？
- A4.** 主要顧客の市況の悪化によるものと思われる。今下期で在庫調整が終わって、来期から平常になるという認識でいる。
- Q5.** 次期中計は3か年で来春の発表になるのか。ROE10%以上を目指していただきたい。ROEの分子の方は新規事業等で利益を伸ばすとして、分母の資本の方はこれ以上増やさない努力が必要（ほぼ無借金でキャッシュリッチなので）かと思う。例えば、DOE5%等、大幅な増配を期待しても良いのか。
- A5.** 次の中期経営計画を現在作成しており、来年5月頃に開示する予定。次の3か年でROE10%は厳しいと見ている。1つ2つ新規案件を出して何とか8%まで持っていきたいと考えている。キャッシュリッチ・DOE5%という話も出たが、当社は無機化学品メーカーと違いベントナイトの鉱山経営、川上から川下までやっている企業であり、特に鉱山経営はある程度キャッシュを持たなければならないとの認識を持っている。配当は先程お話しした還元方針に沿って今後しばらくは続けていきたいと考えている。
- Q6.** 来年の見通しは半年前と比べて良くなっているという理解で良いか。事業環境の見立てがどのように変わってきているかをもう少し詳しく教えて欲しい。
- A6.** 素形材については自動車関連が重要な分野になっている。自動車生産高の不透明感があるが、あまり変わらない見通しを持っている。アメリカ向けの輸出は各自動車メーカーが値段を下げて輸出を継続しているため、部品メーカー等に値下げ要求をするという話もあり、そのあたりはマイナス材料になる可能性があるかと危惧している。
- 環境建設は新規の六ヶ所村プロジェクトが動き出し、そこそこのボリュームの受注になる。一般土木もいくつかプロジェクトを受注しており、来期の見通しは今期よりプラスの数字になると見ている。
- 全般的に土木建設関係については人手不足や建設資材の高騰があるので全体の工事が増えるとは思っていないが、地道にプロジェクトを追いかけたものが取れてきているところで、今期以上の数字が出るのではないかと考えている。

クレイサイエンスは今期苦戦している。若干回復すると思うが、大幅な回復は見込んでいない。新規案件として化粧品のUVケアや3次元細胞培養等の新規案件が成長していないと来期も厳しいと捉えている。

アグリ事業は基本的に農薬の需要が今年結構堅調であり、新規の種子コーティングの伸びも期待されることから比較的事業環境は明るいとしている。ただ、工場の製造キャパが少し飽和状態にあるので設備投資も含めて考えている。

以上